様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 ２２ 日現在

機関番号：３４３１５
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2014～2016
課題番号：２６７７０２１０

研究課題名（和文）20世紀前半アメリカ海外医療事業とアジア太平洋地域の公衆衛生制度

研究課題名（英文）Red Cross Humanitarianism and the Creation of International Public Health Order in Asia Pacific

研究代表者
牧田　義也（MAKITA, Yoshiya）

立命館大学・政策科学部・助教

研究者番号：９０７２７７７８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、20世紀前半のアジア太平洋地域における公衆衛生制度の形成過程に対して、アメリカ合衆国の海外医療事業が与えた影響を、アメリカ赤十字社及び同社が主導した国際赤十字連盟の保健事業に焦点を当てて考察した。1898年の米西戦争以降、アジア太平洋地域への進出を加速した合衆国は、20世紀初頭に同地域で多くの医療事業を展開した。本研究はアメリカ赤十字社の海外医療事業に注目し、同社の活動が植民地医学を基盤としつつ、現地住民との協働・対立を通じて、各地の保健制度を構築していった過程を検証した。さらに、同事業を通じて各地の衛生事業の平準化が促進されたことを指摘し、公衆衛生の制度化の国際的契機を論証した。

研究成果の概要（英文）：This research project examines the creation of an international public health order in Asia Pacific after the First World War through an analysis of public health programs introduced by the American Red Cross Society. After the devastation of the First World War, Red Cross humanitarians extended their field of activities from wartime to peacetime programs by launching the League of Red Cross Societies (LRCS) as an international health organization. Under the guidance of the LRCS, American humanitarians promoted the standardization of public health measures in their colonial territories in postwar Asia Pacific. By focusing on the transnational circulation of humanitarian ideals through the international Red Cross movement, this paper unveils ideological politics of humanitarianism in Asia Pacific in the 1920s.

研究分野：トランスナショナル・ヒストリー

キーワード：国際赤十字運動　アメリカ赤十字社　人道主義　アメリカ史　アジア太平洋史　アジア医療史　トランスナショナル・ヒストリー　植民地主義

１．研究開始当初の背景

(1) 合衆国の州・都市における福祉行政の医療化(medicalization)と関連する従来の諸研究は、同時期の福祉プログラムの再編が、19 世紀後半以降の医療思想の国際的な連関の中で構築されたことを検証してきた。先行研究は、同時期の合衆国の社会政策が、ヨーロッパ諸国の社会保険制度の影響下で策定されたことをすでに指摘している。このような社会政策の環大西洋連関と並行して、医療思想の環太平洋連関が、20 世紀初頭の合衆国の福祉行政再編成に大きな影響を与えたことを、本研究は 20 世紀転換期のアメリカ人医師・女性看護師による海外医療事業に注目して検証することを企図した。

(2) 研究代表者はこれまでの研究を通じて、アジア太平洋地域での医療経験を通じて蓄積された実践的な医学知識が、合衆国内の福祉事業に転用されていった過程を跡づけてきた。そして 20 世紀初頭の身体的健常性の概念をめぐるアメリカ医療思想の起源が、ヨーロッパの医学・衛生思想とともに、同時期の人種観念と密接に結びついた植民地医学の知見に存することを検証してきた。これに対して本研究では、分析視角の転換を試みた。すなわち本研究は、合衆国の海外医療事業を受容した側であるアジア太平洋地域へと分析の焦点を移し、同地域の公衆衛生制度の形成過程に対して、アメリカ人の医療・保健事業が与えた影響を考察することを目指した。

２．研究の目的

本研究の目的は、アジア太平洋地域における合衆国の海外医療事業の分析を通じて、合衆国の社会政策を医療思想の国際連関の中に位置づけて理解する分析枠組を構築するとともに、20 世紀前半の同地域における医療・衛生思想の国際循環プロセスを解明することである。

３．研究の方法

(1) 本研究は上述の目的のために、アメリカ赤十字社及び同社が主導した国際赤十字連盟の保健事業の分析を通じて、アジア太平洋地域における公衆衛生の制度化に際して、合衆国の海外医療事業が及ぼした影響を考察した。アメリカ赤十字社の海外事業に関する従来の諸研究は、第一次世界大戦を契機として同社の活動が活発化し、大戦後には中東欧諸国の復興に際して同社の人道援助事業が枢要な役割を果たしたことを指摘している。ヨーロッパの戦後復興におけるアメリカ赤十字社の事業に分析を集中させてきたこれまでの諸研究に対して、本研究はアジア太平洋地域における同社の医療・保健事業の重要性に注目した。19 世紀末の米西戦争以降、アメリカ赤十字社は医療職員を同地域へと継続的に派遣し、植民地統治下で設立された同社フィリピン支部を中心として積極的に保健事業を展開していった。また、大戦後に同社主導の下で組織された国際赤十字連盟は、1922 年以降アジア太平洋を重点的活動地域として位置づけ、東洋赤十字会議を通じて各国の公衆衛生制度の確立を図った。同連盟及びロックフェラー財団との協力関係を基盤として、アメリカ赤十字社はハワイ・フィリピン・中国等の各地に設立された同社支部組織の連携を緊密化し、国際連盟保健委員会がアジア太平洋地域における保健事業を本格化させる 1920 年代半ばまで、実質的に同地域で公衆衛生事業を推進する中心的役割を担ったのである。本研究は、アジア太平洋地域におけるアメリカ赤十字社の医療・保健事業に注目することで、同社支部組織のネットワークを通じて、域内各国の保健事業の制度的な平準化が促進された過程を分析し、同地域の公衆衛生制度の形成の端緒とその国際的契機について考察を行った。

(2) 本研究は国際史の分析視角から、衛生事業の国際連関が有した複層構造に着目した。同時期のアメリカ赤十字社による海外医療事業は、合衆国東部諸都市での慈善事業を通じて蓄積された実践的な医療知識を、アジア諸国の主要港湾都市に移植する試みであった。本研究はまずこうした衛生事業の地方間連関性(inter-local connectivity)の様態を、アジア太平洋地域内部の都市間での制度伝播過程も分析の射程に収めつつ、中国南部諸都市に焦点を当てて考察した。但し、こうした地方間連関性への注目は、制度伝播過程における国家の介在を否定するものではない。西洋医学・衛生制度の整備は、国際社会における国家主権の承認の条件として、アジア諸国によって積極的に推進された。本研究はこの衛生制度の国家間連関性(inter-national connectivity)の局面を、植民地統治下フィリピンでの衛生事業が、自治・独立を志向する現地住民との協働と対立を通じて構築されていった過程に注目して分析した。さらに、これら衛生制度の地方・国家間の連関は、国際赤十字連盟という国際機関によって媒介されていた。本研究はこの超国家的機構(transnational agency)が果たした、植民地医学の実践的知識を集積・平準化していく役割に焦点を当てた。以上のように、本研究は地方・国家・国際機関という三つの視角から、アジア太平洋地域における衛生制度の国際連関の分析を試みた。

４．研究成果

(1) 本研究はまず、合衆国メリーランド州の国立公文書館にて、20 世紀初頭のアメリカ赤十字社による海外公衆衛生事業に関する未公刊文書類を収集するとともに、ニューヨーク公立図書館未公刊文書室にて、同海外事業に関するより個別的な事例情報を、個人文書類を中心に収集した。これらの史料調査によって、研究対象時期のアジア太平洋地域にお

けるアメリカ赤十字社による公衆衛生システムの構築過程を、組織編成原理と末端における実務実施状況という二つの局面から多角的に分析することが可能となった。以上の分析を通じて、本研究は①植民地期フィリピンにおいてアメリカ赤十字社の衛生事業が果たした役割を、合衆国植民地行政全体の中に位置づけて理解する視点を示した、②合衆国フィリピン委員会保健局の活動に統合された赤十字衛生事業が、フィリピン現地住民との折衝・協働・対立を経て同地の公衆衛生制度の基盤を形成したことを、特にマニラ市を分析対象として論証した、そして③合衆国本土のアメリカ赤十字社本部が、フィリピンでの事業経験を、国際赤十字連盟及び同社海外支部組織のネットワークを通じて、他地域へと応用していく過程を明らかにした。

(2) 本研究は次に、スイス・ジュネーヴの国際赤十字赤新月社連盟文書室にて、20 世紀初頭のアジア太平洋地域における赤十字公衆衛生事業に関する未公刊文書類及び稀少本類を収集した。さらに合衆国・ニューヨーク市公立図書館・ニューヨーク州立文書館にて、アメリカ赤十字社の海外事業の基盤となった合衆国内衛生事業について史料収集を行った。これらの史料調査によって、研究対象時期のアジア太平洋地域におけるアメリカ赤十字社による公衆衛生システムの構築過程を、国際赤十字運動というトランスナショナルな文脈と、合衆国内の保健衛生制度というナショナルな文脈の双方から多角的に理解することが可能となった。以上のような分析枠組に基づいて、本研究は分析対象期間の中国におけるアメリカ赤十字社の保健事業について、①上海に設置されたアメリカ赤十字中国中央委員会が、同市共同租界工部局衛生処や、ロックフェラー財団・YMCA・海外医療伝道団等の民間団体によって集積された衛生事業に関する実践的知識を、同社支部組織を通じて中国国内に拡散させていく過程を跡づけ、②公衆衛生制度形成過程でのアメリカ赤十字社と中国紅十字会との協働関係を、災害救護事業・保健指導・予防医学普及事業の分析を通じて明らかにし、さらに③中国南部諸都市の保健事業への中国系フィリピン人の関与に焦点を当て、中国の公衆衛生制度の形成過程を、アジア太平洋地域内部の地方間連関性の視点から明らかにした。

(3) 本研究はさらに、日本赤十字豊田看護大学、岐阜県立図書館、上智大学図書館、国会図書館等、国内の諸機関において、関連する未公刊文書類や稀少本を中心とした史料調査・収集を実施した。これに加えて、合衆国ニューヨーク市公立図書館、同市立文書館にて、未公刊文書類の追加調査を実施した。これら国内外の史料調査・収集によって、アジア太平洋地域における公衆衛生制度の形成過程に対して、東洋赤十字会議を中心とする国際赤十字運動が果たした役割について、実証分析を行うための基盤が構築された。以上の実証分析に基づいて、本研究は国際赤十字連盟東洋会議を通じた各国保健事業の制度的平準化について、①1922 年の第一回東洋赤十字会議開催に至る国際赤十字連盟のアジア太平洋地域に対する政策形成過程を、同連盟医療局の活動に注目して明らかにし、②シャム赤十字社の創設に際してのアメリカ赤十字社の指導・影響を分析するとともに、東南アジア半島部の公衆衛生制度の形成に対して国際赤十字連盟が果たした役割を、シャムを中心として考察し、③1926 年の第二回東洋赤十字会議開催までのアジア太平洋地域における衛生事業の相互連関性を、国際赤十字連盟の政策方針に対する日本の反応に焦点を当てて明らかにした。

(4) 以上の研究成果は、保健衛生分野において合衆国とアジア太平洋地域が相互に影響を及ぼすなかで、医療知識・技術・経験の国際移転が双方向で生じたことを明らかにした。但し研究の途上で、アジア太平洋地域の保健衛生制度に影響を与えたのは、合衆国だけではない、という事態も明らかになった。アジア太平洋地域における保健衛生の制度化・平準化は、実際には同地域に植民地を保有する複数国の競合・対立・連携の過程で促進されていたのである。その際、アメリカ赤十字社と並行して重要な役割を果たしたのは、日本赤十字社による医療事業であった。日本赤十字社は日露戦争を契機として財政規模・社員数を飛躍的に増大させ、東アジアにおける中心的な人道支援機関となった。一方、アメリカ赤十字社は第一次世界大戦期に組織を拡大し、1920 年代には太平洋地域の人道支援事業に積極的に関与した。こうして 20 世紀前半に台頭した日米の赤十字社は、両国の植民地をはじめとして各地に海外支部・委員部を設置し、人道支援の一環として、アジア太平洋地域における保健衛生事業を推進した。さらに、赤十字平時事業の国際機関として設立された国際赤十字連盟は、1922 年以降アジア太平洋を赤十字保健事業の重点地域として位置づけた。同連盟が主催した東洋赤十字会議では、日米の赤十字社が主導権をめぐって競合・対立しつつ、各国赤十字社と連携して域内各地の保健衛生制度の平準化を促進した。本研究は、保健衛生をめぐるこうした競合・対立・連携の過程を、日米の赤十字社に焦点を当てて複眼的に分析する必要性を明らかにするとともに、このような分析枠組に基づいて、20 世紀前半のアジア太平洋地域における医療・衛生思想の国際伝播プロセスを多角的に考察するという新たな研究課題を生み出すことになった。本研究成果を出発点として、国際赤十字運動を中心とする 20 世紀前半の人道支援事業に付随する政治力学や地域秩序の地政学的な構築過程について、日米赤十字社という民間組織の関係

性に着目して、今後更なる分析を行っていく。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　2　件）

①牧田義也「広域圏・国際連関・越境空間：国際的視座の課題と展望」『歴史評論』792 号、2016 年 4 月、5-18 頁。(査読無)

② Yoshiya Makita. “The Alchemy of Humanitarianism: The First World War, the Japanese Red Cross, and the Creation of an International Public Health Order.” *First World War Studies* 5, no. 1 (2014): 117-129. (査読有)

〔学会発表〕（計　8　件）

①牧田義也「医療・植民地主義・人道主義：20 世紀初頭東アジアにおける日本赤十字社病院」ワークショップ「病院の歴史」、大阪大学（大阪府）、2017 年 3 月 17 日。

②牧田義也「越境するアクティヴィズム：20 世紀前半アジア太平洋地域における国際赤十字運動」日本アメリカ史学会第 13 回年次大会、明治大学（東京都）、2016 年 9 月 18 日。

③Yoshiya Makita. “In Between the West and East: Medical Activities of the Japanese Red Cross in the Northeastern Region of China.” Paper presented at the 8th Meeting of the Asian Society for the History of Medicine, Academia Sinica, Taipei, Taiwan, 1 October 2016.

④Yoshiya Makita. “The Contested Ideal: Red Cross Humanitarianism and the Creation of International Public Health Order in Asia.” Paper presented at the international conference “Histories of the Red Cross Movement: Continuity and Change,” Flinders University, Adelaide, Australia, 11 September 2016.

⑤ Yoshiya Makita. “The Price of Humanity: International Red Cross Movement and the Ideological Politics of Humanitarianism in Asia.” Paper presented at the 25th Annual Conference of World History Association, Ghent, Belgium, 4 July 2016.

⑥ Yoshiya Makita. “Under the Aegis of Humanitarianism: American Women Nurses and the Transnational Origins of the U.S. Public Health.” Paper presented at the 130th Annual Meeting of the American Historical Association, Atlanta, U.S., 7 January 2016.

⑦Yoshiya Makita. “Creating a Healthy Citizen: American Women Nurses and the Colonial Origins of the U.S. Public Health.” Paper presented at the 7th World Congress of the International American Studies Association, Seoul, South Korea, 19 August 2015.

⑧Yoshiya Makita. “Humanitarian Exchanges in Asia: The Red Cross Health Programs in the Philippines and the Creation of an International Public Health Order in the 1920s.” Paper presented at the international conference “Exchange and Change: The Philippines and Filipinos in the World,” Australian National University, Canberra, Australia, 13 September 2014.

〔その他〕

①Yoshiya Makita. “Disability History Beyond Borders: The Story of Ryoichi Ishii and Takinogawa Gakuen in Japan.” *Public Disability History* 1:12 (2016). (査読無)
http://www.public-disabilityhistory.org/2016/06/disability-history-beyond-bor ders-story.html

②牧田義也、書評「松原宏之著『虫喰う近代：1910 年代社会衛生運動とアメリカの政治文化』」『歴史評論』779 号、2015 年 3 月、95-100 頁。(査読無)

６．研究組織

(1)研究代表者

牧田　義也（MAKITA, Yoshiya）
立命館大学・政策科学部・助教
研究者番号：９０７２７７７８